

平成 29 年度 特別養護老人ホーム喜久の園事業報告書

第1 概況

1 基本理念、目標の実践

平成 27 年度に実施した報酬改定、入居基準の変更等が影響し、介護保険事業所においては厳しい経営が続くなかで、経費削減を意識しながら施設運営に努めた。

施設運営に直結する利用率の確保は、入居申込者、居宅介護支援事業所等への連絡調整、迅速かつ丁寧な対応を重ねることで空床期間短縮、利用率の維持確保に大きく反映した。

在宅サービスでは、事業所の増加等に伴い利用率の低迷が近隣事業所で課題となるなか、昨年度をやや下回りながらも高い利用率を維持できたことは、利用者に支持されたことにあり、職員それぞれの役割を果たしてきた成果であると思われる。

入居の要件が要介護度 3 以上となり施設間競争の激化、ニーズの多様化等が進み、職員のケア技術向上及び介護・看護の連携強化が求められるなか、温もり溢れる心地よい環境作りを目指し、利用者一人ひとりと真摯に向き合うことに努めた。

2 利用率

平成 29 年度は定例と臨時を合せ 20 回の入居判定会を開催し、計画的に入居事前面接を行うことで入居判定までに要す日数の短縮を図ることができた。結果、22 人の入居判定を行い、18 人が入居した。また、退去から次の入居までの平均所要日数は 16.1 日であった。

入院外泊を除く利用率は 98.4%で、前年度の 99.3%を下回った。また、入院および外泊による空床日数（29 年度 238 日・28 年度 251 日）は前年度を下回った。入院および外泊による空床日数を含めた利用率は 97.1%であった。

3 ケア向上への取り組み

利用者へのケアが適正であるかを関係職員が会議の場で意見を出し合い、サービス内容の共有とケアの統一を確認しあいながら、より質の高いケアを目指すよう取り組んだ。

季節を肌で感じられる外出、ユニットでの催し等、限られた時間、人員体制のなかで生きる喜びを実感できる取り組みに努めた。

4 職員研修の充実

中東遠地区特養の職種別研究会や、市内 4 特養の共同学習会等に参加することにより、地域に関連した課題の整理や情報交換、想いを共有できたことに加え、施設間で良い刺激を受けることができている。一方、専門性の高い教育研修の十分な参加には至らなかった。

5 感染症、防災対策への取り組み

感染症の対策については、感染症対策委員会を中心に流行期に入る前から早目の対策を実施してきたが、2 月 4 日に利用者 2 人が嘔吐して以降、2 月 20 日に有症者が 10 人に達したため、県及び市の関係課に報告。保健所による現地調査を受けるとともに、面

会の制限、ボランティア等行事の変更を行った。当初の4日間で7人が発症、3月5日の終息までの間に有症者は11人（利用者9人、職員2人）であった。

10月には、深夜に利用者が火災報知器のボタンを押してしまい、屋外スピーカーから火災発生の音声が流れ、復旧に手間取ったことから近所から住民が駆けつける事があった。火災を想定した避難誘導訓練は毎月実施しているが、消防設備の操作手順、復旧方法の指導できていなかったため、以降、設備の操作について訓練の中で取り入れた。

9月と10月には、地域交流センターうららの窓ガラスが割れる被害が相次いだ。原因は不明であるが、同時期に市内で窃盗被害が続いていたため、防犯対策の一環として、夜間の照明環境の見直しを行った。

6 利用者家族、ボランティア、関係業者及び地域住民との連携強化

地域交流センター「うらら」の活用については、地域性、公共性に配慮しながら可能な限り路用者の希望に沿った受け入れを心掛けている。

今後の計画として、平成30年度から始まる市の委託事業である認知症カフェは「うらら」を会場に開催する計画であり、今後も地域社会での役割たし、地域貢献につながる活動を模索していく。

7 快適環境の提供と、設備備品のメンテナンスによる計画的な修理・更新

開設10年が経過し、設備備品の劣化、不具合が出始めていて、当年度も大掛かりな修繕、機器の入れ替えを行った。備品の不具合についても可能な限り施設側で手を入れ、修繕が必要な場合には買い替えとの比較を行い、経費を無駄にかけない選択を行っている。また、光熱費では、デマンド（最大需要電力）監視システムを導入しているなか、今冬は特に寒さが厳しいこともあり、エアコンの使用が増え、最大電力を更新した。そのため、事務所や玄関等はエアコンから石油ストーブに切り替え、経費の抑制を図った。

第2 全体の状況

1 利用状況（利用率）

平成29年度は、3月を除いて入退去の動きがあった。特に5月（3人）と11月（4人）には退去者が相次ぎ、次の入居者の確保、入居日の調整において困難を来した。

入所基準の変更（要介護3以上）による入居候補者の減少、他事業所との競争の激化等も影響している。

短期入所の利用率は、最低77.4%（7月）最高94.5%（1月）と月毎で変動が大きく、年平均で昨年をやや下回る84.7%であった。短期入所も他の事業所との競争が激しくなっており、利用率の停滞も予想される。利用率を維持するためにも、利用者の声を大切にしながらサービスに反映させるとともに、新規利用者の獲得、空き待ち希望者の柔軟な受け入れを継続していく。

（単位：％）

区分	平成29年度	平成28年度	増減
施設入居者(定員50人)	97.1	97.9	△0.8
短期利用者(定員10人)	84.7	86.8	△2.1

2 経営状況

平成29年度の収入は275,472千円、うち介護保険収入は273,506千円、その他収入が1,966千円で、前年度対比約4,804千円の増加となった。

支出は267,650千円で、うち人件費が202,723千円、事業費・事務費等が64,927千円となっている。限られた予算の中で支出の抑制に努めた所、前年度対比で事務費、事業費において支出減となったが、人件費は増加となった。また、借入金の償還もあり、他の拠点区分からの繰入金なしでは運営が成り立たない状況となっている。

収入

(単位：千円)

区分	平成29年度	平成28年度	増減
介護保険	273,506	268,717	4,789
その他収入	1,966	1,951	15
計	275,472	270,668	4,804

支出

区分	平成29年度	平成28年度	増減
人件費	202,723	199,406	3,317
事務費 事業費等	64,927	66,031	△1,104
計	267,650	265,437	2,213

3 職員状況（部門別職員数）

平成29年度末の全体職員数は52人で、正規職員は30人。内訳は介護職員20人、看護職員3人、管理栄養士1人、事務室職員6人である。また、非正規職員は嘱託職員、嘱託医師を含め22人である。

年度途中の退職者は正規・非正規職員合わせ6人、途中採用は5人であった。育児休業復帰が1人で、新規学卒者1人を採用した。

(平成30年3月31日現在)

(単位：人)

区分	事務室			介護職員	医務室	調理	合計
	施設長 副施設長 事務部長 介護部主幹	介護支援専門員(主任) 管理室員	送迎担当 清掃員	主任 副主任 一般	看護職員 嘱託医師 機能訓練指導員	管理栄養士	
正規	5	1	—	20	3	1	30
非正規	—	1	2	13	6	—	22
計	5	2	2	33	9	1	52
28年同期	5	2 (1)	3 (3)	35 (14)	8 (6)	1	54 (24)

注) 1 28年同期の()は、うち非正規職員である。

2 他に産休、育休中の職員なし。

4 施設整備等の状況

平成 29 年度の修繕費の総額は約 140 万円で、下半期に入り大掛かりな修繕が続いた。厨房空調機修理代に約 50 万円、厨房用給湯器交換工事に約 35 万円を要した。また、2 度破損（原因不明）した「うらら」の窓ガラスの修理代に約 10 万円を要した。

5 特記事項

(1) 家族、利用者との交流行事の開催

① 納涼祭 7/22（土）14:00～16:00 開催

施設利用者 47 人・短期利用者 9 人・38 家族（88 人）・招待 43 人・来賓 17 人・ボランティア 8 人 合計 212 人

内容：潮海寺祇園囃子保存会によるお囃子/ 出店 / ミニゲーム

② 敬老祝賀会 9/16（土）14:00～15:20 開催

施設利用者 41 人・短期利用者 7 人・33 家族（58 人）・来賓 12 人 合計 118 人

内容：式典（祝辞・記念品贈呈）/余興（マジックショー）

(2) 地域交流センター「うらら」の利用

地域住民や利用者、家族との交流の場、更には各種研修の場として積極的な利用に努めた。また、平成 25 年 3 月の地元仲島自治会との「防災に関する覚書」に基づき、防災用品を保管、管理を行っている。

第3 部門別の状況

1 事務・管理部門（資料編 8・16）

施設内においては他職種・他部署間のコミュニケーションを積極的に図り、連携を深めるとともに、利用者への明るい挨拶と声掛け、面会を始めとする来園者への丁寧な対応を心掛けた。

① 面会者の来園・帰宅時の「挨拶」の徹底を図り、利用者、家族等すべての方との「最初の窓口」であることを常に意識した明るい笑顔の挨拶と対応を心掛けた。なお、年間面会者は 4,069 人、1 日平均 11.1 人と、前年度より 1 日平均 0.8 人の増加であった。

ケース記録をシステム上で共有化し、利用者の日々の容態把握に努め、面会で来園した家族に対し、窓口対応の時点で職員側から家人へ状況報告ができる体制作りを進めた。

② 事務室職員は各自の役割、使命を果たすとともに、介護部主幹、介護支援専門員、管理栄養士を中心に利用者本位の業務と現場職員の業務円滑化に取り組んだ。

③ 各種諸制度の周知と利用者及び家族への個別説明、事務代行手続きを通して、親切丁寧な対応を心掛けた。

2 介護部門（資料編 5.6.7.18）

①満足度の高いケア（個別支援）の充実に向けて

ア 個別性を考慮し、利用者一人ひとりの生活が尊重されるよう、居室担当を中心とし、個別支援を進めた。日々の充実や安らぎを感じられるように余暇活動の実践、外出支援が活性化されるよう、施設全体での協力体制を築いた。他部署との協議や助言を受け、

利用者一人ひとりの状況に配慮しながら、身体機能の向上、保有機能維持ができるよう努めた。水分摂取量は、利用者ごとの一日の水分摂取量を把握し、それぞれの状態に合わせて、増加への支援を押し進めた。

イ 各利用者の意向が尊重されるよう、ケアマネジャーを中心とした他職種連携により、それぞれの自立支援にむけたケアプランを策定、実現にむけ支援を進めた。居室担当者は、ケアマネジャーが開催するサービス担当者会議に参加し、利用者の様子や支援について家族へ説明や要望を受けた。

ウ 介護職員は、基本的な医療処置ができるよう自己研鑽に努めた。看護職員のスキルチェックや指導を受け、観察眼を養えるよう、医療知識・スキルの向上を目指した。

エ 施設内において、介護職員が幅広くケアについて積極的な関わりができるよう、ユニット単位ではなく、フロアとして横断的な介護体制を確保するよう努めた。フロア単位のケアの在り方や、協力体制に向けてミーティングや会議をより活性化、職員一人ひとりが自分の意見を発信できるような環境作りに努めた。

オ 各ユニットにおいて、利用者目線の具体的なケア目標を掲げ、実践に向けて取り組みを進めた。実践に向けてユニット会議内で確認、振り返り、検討した。

カ 先進ユニット施設や近隣施設の見学や職員交流を行い、良い点は積極的に取り入れるよう働きかけた(今年度は遠州の園と職員交流を実施した)。

キ 「一人一研修」を目標としていたが、日程や人員の都合により、参加出来る職員が限られてしまった。研修に参加した職員が、研修で得たことを施設に還元する事で、施設全体でのレベルアップに繋げた。

・ 4/26 他 3 回	市内 4 施設共同学習会	4 人
・ 9/19 他 3 回	身体拘束廃止推進委員養成研修	1 人
・ 10/7	中東遠地区職種別研究会	1 人
・ 10/24	感染症研修会	2 人
・ 11/28	フォローアップセミナー	1 人
・ 2/20	地域包括ケア体制構築促進研修会	1 人
・ 3/12	実習指導者懇談会	1 人

ク 処遇別委員会(排泄・入浴・食事・介護力向上)を適宜開催し、施設内においてケアやマニュアル等の見直しを行った。

3 相談部門 (資料編 11)

日頃の相談対応とともに、報酬改定に伴う利用料金の変更等に関する内容の周知と丁寧な説明を心掛けた。

各種被保険者証書類の管理業務において、適正な管理とあわせ、更新手続き等の代行業務についても積極的に応対し、家人の各種手続きの負担軽減に努めた。

- ① 利用者、家族からの要望に対し傾聴を心掛け、真摯に受け止め、即応に努めた。
- ② 万一の事故発生時には、適切な対応と共に、家族・関係機関等への正確かつ迅速な報告、説明を心掛け、本人・家族の「安全・安心・安楽」と合わせて「信頼」も得られるような対応に努めた。
- ③ 入居受付業務について、平成 30 年 3 月 31 日時点での入居申込者数は 91 人 (要介護 3 以上 63 人・特例 28 人) であり、前年度の 82 人から微増となった。

申込者数、早期入居希望者減少への対策として、第三者委員と入居順位を協議する優先入居検討委員会を5回開催（5/22・8/21・11/27・12/19(特例入所に係る開催)・3/1)し、介護者の傷病や入院、退院・退去を迫られているケースなどの緊急性、切迫性が高い入居希望に対し、タイムリーに対応できる体制構築を図った。

毎月の入居判定会（4/13・5/12・6/14・7/14・8/17・9/14・10/13・11/16・12/14・1/12・2/15・3/15）の開催とともに、計画的にかつ随時に申込者家族への近況、入居意思確認の連絡を行い、要医療ケアによる突発的な退去などの事案には臨時に判定会（4/4・5/30・7/31・8/7・8/23・11/8・12/6・2/8）を開催するなど、事前面接から入居判定までに要する日数短縮に心掛けた。

退去から次の入居までの平均所要日数については、前述の取り組みとともに退去者数が増加した（前年度14人・今年度17人）影響もあり、退去から次の入居までの平均所要日数は前年度の9.5日から16.1日と延びた。

要介護1及び2の方の入居（特例入居）要件に該当するケースが1件あり、保険者である菊川市への意見照会を行い、優先入居検討委員会を臨時で開催した（入居時要介護3）。

- ④ 迅速な入退去手続きとともに、協力医療機関である菊川市立総合病院と嘱託医師や医療職との協力を前提に、定期的な面会、病状説明時の立会いを通して入院加療後の利用者の円滑な退院調整に努めた。
- ⑤ 社会福祉士実習養成校として、福祉系大学、短大、専門学校の実習受け入れを行った。

4 看護（医務）部門（資料編12・13）

- ① 「喜久の園医療行為に関するガイドライン」を遵守し、配置医師の指示の下、日常の情報交換、指示・非指示の連絡を緊密に行い、緊急事態に即応できるよう努めた。
- ② 看取り介護を利用者本人・家族の同意を得て、配置医師・看護職員・介護職員等の連携体制の下にケアカンファレンスを開催・実施し、計画から振り返りまで他職種と連携を取り統一したケアを実施することができた。
- ③ 感染症対策委員会を中心に感染予防に努めたが、感染性胃腸炎（疑いも含む）が集団感染し、インフルエンザ罹患者も出てしまった。
 - ・感染性胃腸炎→利用者8人 職員3人
 - ・インフルエンザ→職員2人
- ④ ショートステイ担当看護師を中心に、担当介護職員・居宅支援専門員・訪問看護師家族から事前に情報収集を行い、連絡を密にしながらケアにあたることができた。
- ⑤ 投薬ミス（誤薬・服薬漏れ）等の医療事故を防止するため、「臨時投薬者一覧表」を作成し、服薬チェック体制を再度見直した。投薬ミスが発生しない体制整備を図ると共に、介護職員に対し、薬の効能・副作用などの知識指導を行った。
- ⑥ 全介護職員に対しての「医療知識・技術スキルチェック」は実施できなかったが、適宜個別指導を行うことでスキルを向上させ、維持することができた。
- ⑦ 4月・11月に健康診断実施
利用者の状況を把握し体調管理に努めることができた。
職員は診断結果により再診・再検査を指示し健康維持を図ることができた。
- ⑧ 「菊川市立総合病院及び市内福祉社会施設等連絡協議会」年2回、「市内4特養共同学習交流会」年1回「中東遠地区特養職種別研究会」年1回参加し、他施設・地域の医療機関との連携を深めることができた。

5 食事部門

- ① 食事形態の見直しを各部署と連携して行い“最期まで口から食べる”を目指し安全かつおいしい食事の提供を心掛けた。
- ② 水分摂取量がアップできるように水分提供方法について検討し、週 2 回の水分補給ゼリーの提供を継続して行った。平成 29 年度水分摂取量平均は 1,075.3ml であった。
- ③ 食事委員会を月 1 回開催し、食事内容や食事提供方法について看護師、介護職員と共に検討することが出来た。
- ④ 委託業者と協力し、イベント食やユニット調理を実施し、食事提供の充実を図ることで食事満足度を高めた。あゆの炭火焼やさんまの炭火焼、流しそうめんを実施した。ユニット調理では炒飯やぎょうざ、揚げたて天ぷらなどを提供し出来たての物を食べていただけるよう企画した。
- ⑤ 他職種と連携した栄養ケアマネジメントが実施出来るよう努めた。また介護支援専門員と共同してケアプランと栄養ケア計画が連動するように心掛けた。
- ⑥ 季節感を感じる行事食を積極的に提供した。
- ⑦ 感染症、食中毒防止の為に、ユニット内冷蔵庫の食品の期限確認を行った。
また、ユニットラウンド時にキッチン周りを確認し、介護職員に清潔を保持出来るよう呼びかけた。
- ⑧ 委託業者への衛生管理を徹底し、感染症の防止に努めた。
- ⑨ 月 1 回の委託業者による給食材料費の収支報告を行い、給食材料費管理と内容について精査した。
- ⑩ 管理栄養士養成校の学生の実習を受け入れすることにより人材育成に努めた。

6 各委員会

各種委員会の活性化—事故のない安全で安心、快適な生活の実現を目指し取り組んだ。

① 企画・広報委員会

ア ユニット行事、歌声広場、ボランティア活動、行事食等を月間行事予定表として、ロビー、ユニットに掲示、周知した。各ユニットやフロアで余暇行事を積極的に企画・実施出来るよう、部署を越えて協力体制を維持した。地域との交流が出来るよう、外出支援を増やした。

イ 行事や企画は利用者満足度向上、自立支援、充実感につながることから全職員が対応し、日常的に開催できるよう取り組んだ。

ウ 広報紙は現場に無理のないような体制で定期的な発行を目指したが 1 回しか発行できなかった。

エ 広報紙へは写真を多く掲載し、家族に施設での生活を分かりやすく伝えていく。同じ利用者ばかり掲載しないよう注意した。

② 防災委員会

ア 被害想定をふまえた消火・避難・通報体制の確保等、防火・防災対策の徹底を図った。

イ 毎月定期的にフロア・ユニットごとに避難誘導訓練を実施した（4/26、5/31、6/28、7/26、8/23、9/27、10/25、11/29、1/31、2/28、3/28）が、防災設備の取扱いが不慣れなことにより、夜間誤報時の対処に手間取ってしまった。

- ウ 年2回以上の夜間訓練を計画したが、夜間想定の実施となった。
消防署立会い訓練とあわせ夜間訓練実施は引き続きの課題である。
- エ 災害時優先電話の活用、職員緊急連絡網、連絡体制の整備に努めたが、コミュニメールによる情報伝達訓練は実施できなかった。
- オ 設置義務化となった既存の火災通報装置の自動報知化に対応し設置した。
- ③ 苦情解決委員会
前年度4件の苦情に対し、今年度は2件の申し出を受け付け、解決に努めた。
苦情解決委員会及び、苦情解決第三者委員定期ヒアリングを開催した(7/27・3/27)。
- ア 「利用者、家族からの声」として真摯に受け止め、常に利用者の立場に立った早期対応、関係者への迅速な周知と情報の共有化を図った。
- イ 申し出に対する早期対応に努めた結果、苦情要望の再申し出はなかった。
利用者家族、本人からの申し出に対し、受付担当者の対応を待たずとも各部署職員が真摯に耳を傾け寄り添うことで解決につながる事例もあり、日頃から相互に信頼関係を築くことの大切さを認識した。
- ④ 個人情報保護委員会
ア 個人番号(マイナンバー)制度をはじめ、利用者、家族、職員の個人情報の管理徹底に努めた。
イ 職員緊急連絡網作成(4月・11月)による職員の電話番号に関する管理を徹底した。
- ⑤ 事故防止委員会
ア 年間事故件数は、前年対比20%以上減を目指し120件(月10件)以下を目標としたが、平成29年度は事故170件、ヒヤリハットは85件であった(平成28年度は事故155件、ヒヤリハット77件)。毎月の会議内で、事故要因の分析、解決方法を具体化し、事故防止に心掛けた。
イ 事故報告書、ヒヤリハットの記入方法の工夫・簡素化することで、誰にでも内容が理解できるようにした。
ウ 医務室と連携し、服薬ミスをなくすための報告・連絡・確認の徹底に努めたが、薬に関する事故は29件と(平成28年度は29件)変わらず。より一層の注意や指導が必要である。
- エ 職員一人ひとりの意識を高め、事故防止を考えた利用者の生活環境づくり(個々にあったベッドや車椅子の選定、センサーマットの試用、リビングのしつらえ等)に努めた。
- ⑥ 身体拘束廃止委員会
ア 「身体拘束0宣言」の継続を図りつつ、身体拘束についてより深めた研修を行い、知識、意識のレベル向上を図り、身体拘束廃止を目指した(今年度は①基本的知識の確認と意識調査②スピーチロック…言葉の言い換えの全2回)。身体拘束廃止推進員養成研修に参加し、尊厳を守るケアや権利擁護についても理解を深めた。
イ このため、原則月1回開催し、拘束の可否について現状を確認・分析し、施設全体で身体拘束廃止に向けた取り組みを進めた。必要な場面に応じては、部署間で協議・連携を行い対応した。
ウ ユニット会議において、身体拘束に代わる代替ケアや工夫について適宜話し合いを行い実践した。日々の様子を観察、記録、振り返ることによって、身体拘束解除への取り組みを進めた。

エ センサーマットを行動把握として活用し、必要性の可否を都度検討し、施設全体で身体拘束廃止に向けて取り組む。

⑦ 看取り介護委員会

ア 月1回開催し、計画から振り返りまで多職種で連携をとり統一したケアを提供することができた。

イ 看取り介護についての学習会・施設内研修をユニット会議内で実施した。(2025年問題と看取り介護加算について)

ウ 退去される際、利用者も含み多くの人でお見送りできた。看取り期に近い状態から看取り介護中はご家族とのコミュニケーションを更に深め精神的なフォローに努め、また退去後も心的フォローを行えた。

エ 介護部、看護部の告別式への参列はできなかった。管理責任者が参列し、その際の様子を事務連絡にて全職員へ報告をされたことにご家族や利用者へ対する職務の役割、責任の重さなどの意識が高められた。

⑧ 医療的ケア対策推進委員会

ア 喀痰吸引・経管栄養に関する指導は継続しつつ、その他の医療的知識・技術に関して医務室によるスキルチェックを行う予定であったが、実施出来なかった。新入職介護職員は確実に実施した。

イ 認定特定行為業務認定を受けていない介護職員に対して、取得できる機会を得るよう努めたが、取得者なしであった。

⑨ 感染症対策委員会

ア 感染症罹患患者ゼロを目指したが、感染性胃腸炎(疑い含む)が集団感染してしまい、インフルエンザ罹患患者も出てしまった。

臨時の委員会を開催し、隔離方法、面会、清掃、ショートステイなどの対応について協議、指示し拡大防止に努めた。

イ 施設内で感染症の学習会・研修会を開催し、職員一人ひとりの意識の向上、知識の習得を図ることができた。

(学習会) 7月「手指衛生について」「ブラックライトで手洗いチェック」

10月「ノロウイルスについて」「嘔吐物処理方法」

→嘔吐物処理方法はユニット会議内で実技指導を行なった。

ウ 学習会・研修会で基本的な正しい知識を習得したうえで、日常業務における実践ができた。嘔吐物処理などスムーズに行なえた。

エ 外部の研修会に参加し、知識の習得・感染症に関する情報収集を行う。

10月に2回、感染症研修会に参加することができた。

⑩ 介護技術向上委員会

ア 平成27年度に実施した「介護部スキルチェック」の項目と内容を精査し引き続き実施した。

イ 「介護部スキルチェック」後の指導方法、指導マニュアルや指導体制づくりを各処遇委員会と連携し、システム化を目指したが、実現には至らなかった。

ウ 利用者一人ひとりに合った褥瘡予防策を考え、ケアを検討、実践することで褥瘡予防を図った。『褥瘡予防策についての実施及び評価』を作成し、委員・看護師・管理栄養士で皮膚トラブルの現状を知り、予防対策の見直し・情報共有に努めた。

- エ 外部の研修会に参加出来なかったが、移乗技術・褥瘡ケア等の情報収集に努めた。
- ⑪ 衛生委員会
- ア 年2回の健康診断（4月・11月）を実施し、その結果を職員の健康意識の啓発や健康管理に活用した。また、ストレスチェックについては法令で定める対応を行った。
- イ 腰痛予防のためアンケートを行い現状分析すると共に、対策のため腰痛体操や必要に応じて腰痛ベルトを支給した。

第4 短期入所生活介護事業所（資料編20）

- ① ショートステイユニットとして職員の体制、意識を整え「喜久の園を利用して良かった」と評価され、選ばれる施設を目指し、平均利用率86%の目標に対し84.7%であった。
- ② 誰もが正しいケアに入れるよう業務マニュアルを活用し、定期的にマニュアルの見直しを行った。
- ③ 空室情報を居宅介護支援事業者等へ積極的に発信し、利用率アップを心掛けた。
- ④ ショートステイ担当職員が不在の日でも申し送りを確実にを行い、外部とのやり取りができる体制を整えた。
- ⑤ 感染症を施設に持ち込まぬよう、事前の体調確認を徹底した事で感染症を予防することができた。しかし、ショートステイのユニット以外で流行した嘔吐等の症状に一部の利用者が罹患し、予定を繰り上げての終了及び、一時的な利用見合わせの措置を取った。
- ⑥ 毎月のユニット会議を通して情報の共有を図ることができた。
- ⑦ 朝礼では、事故防止のために利用者のケアの注意点等を確実に申し送ることができた。
- ⑧ 各職員が担当の利用者を持ち、その利用者へのケアについて責任を持つことができた。
- ⑨ 日々の行事やレクリエーションを充実させ、利用者を楽しんでいただいた。
- ⑩ 利用中の様子を書面や写真等で家族にわかりやすく伝えることで喜んでいただいた。

資料編

平成 29 年度

平成 30 年 3 月 31 日現在

特別養護老人ホーム喜久の園

1 介護度別利用(入居)者数

(平成30年3月31日現在)

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	0	0	3	3	2	8
女性	0	2	14	14	12	42
合計	0	2	17	17	14	50
割合(%)	0.0%	4.0%	34.0%	34.0%	28.0%	100.0%

平均要介護度	3.86	(男性	3.88	女性	3.86)
平成28年度	3.67	(男性	3.67	女性	3.68)

2 年齢別利用(入居)者数

(平成30年3月31日現在)

	64歳以下	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳以上	合計
男性	0	0	0	0	1	2	5	0	8
女性	1	1	2	3	2	9	16	8	42
合計	1	1	2	3	3	11	21	8	50

(平成29年3月31日現在)

	合計
男性	9
女性	40
合計	49

3 利用(入居)者平均年齢

(平成30年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	90歳0ヶ月	80歳7ヶ月	94歳7ヶ月
女性	88歳4ヶ月	63歳8ヶ月	100歳8ヶ月
合計	88歳7ヶ月		

(平成29年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	89歳3ヶ月	81歳10ヶ月	98歳6ヶ月
女性	88歳6ヶ月	62歳9ヶ月	102歳10ヶ月
合計	88歳8ヶ月	—	—

4 在所期間別利用(入居)数

(平成30年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
男性	3	2	2	0	1	8
女性	11	8	8	7	8	42
合計	14	10	10	7	9	50

(平成29年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
男性	2	4	2	1	0	9
女性	10	12	7	5	6	40
合計	12	16	9	6	6	49

5 食事介助状況者数

(平成30年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	7	14.0%
一部介助者	9	18.0%
介助なし	34	68.0%

(平成29年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	6	12.2%
一部介助者	12	24.5%
介助なし	31	63.3%

6 入浴介助状況者数

(平成30年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別浴	23	46.0%
個 浴	27	54.0%

(平成29年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別浴	21	42.9%
個 浴	28	57.1%

7 排泄介助状況者数

(平成30年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	16	32.0%
紙ハンツ又はトイレ介助者、 ホームトイレ使用者	26	52.0%
歩行、杖等でのトイレ使用者	8	16.0%

(平成29年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	8	16.3%
紙ハンツ又はトイレ介助者、 ホームトイレ使用者	39	79.6%
歩行、杖等でのトイレ使用者	2	4.1%

8 面会状況

(平成29年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成28年度
人 数	316	351	263	421	472	468	385	417	316	314	84	262	4,069	3,768
1日平均人数	10.5	11.3	8.8	13.6	15.2	15.6	12.4	13.9	10.2	10.1	3.0	8.5	11.1	10.3

9 帰省(外出)状況

(平成29年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成28年度
人 数	3	2	3	4	3	4	4	2	5	5	2	8	45	118
日 数	7	4	7	7	7	9	10	6	9	11	4	14	95	156

10 入居・退去状況

(平成29年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成28年度
入居者数	1	1	2	1	2	1	1	3	3	0	3	0	18	14
退去者数	0	3	0	2	1	1	2	4	1	1	2	0	17	14
月末在籍者数	50	48	50	49	50	50	49	48	50	49	50	50	593	593

(平成29年度)

性 別	入 居			退 去			平成28年度			
	男 性	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計	入 居	退 去		
人 数	5	13	18	6	11	17	14	14		
入居前及び 退去時の状 況	居 宅 8			死 亡 16			居宅	7	死亡	11
	病 院 2			他施設・長期入院 1			病院	0	他施設 長期入院	3
	施設(老健等) 8			居 宅 0			施設	7	居宅	0

11 苦情受付状況

1) 苦情受付件数

(平成29年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成28年度
苦情受付件数	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	4

2) 苦情の分類一覧

(平成29年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	2
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	0
合計	2

(平成28年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	4
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	0
合計	4

12 他医療機関への受診状況

(平成29年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成28年度
内科		3	2	1			3	2	2	1	4	2	20	40
精神科												2	2	2
脳外科								1			2		3	3
整形外科	3	7	3	5	8	2	3	2	3	7	3	3	49	48
外科						1	2	1					4	6
泌尿器科	1	1	2	1	2		1	2	1	1	1	1	14	24
眼科			1			1						1	3	7
皮膚科	2	1	3	6	6	5	7	4	3	2	1	2	42	58
循環器科														0
合計	6	12	11	13	16	9	16	12	9	11	11	11	137	189

13 入居者・利用者医療状況

1) 入院状況

(平成29年度)

治療科	人数	治療科	人数	平成28年度	
内科	12	泌尿器科	0	9	0
循環器科	0	整形外科	0	0	2
脳外科	0	口腔外科	0	1	0

2) 処置状況

(平成30年3月31日現在)

処置状況	人数	処置状況	人数	平成29年3月31日現在	
経口与薬	50	経管栄養	0	50	0
創傷処置	3	バルーンカテーテル挿入	1	2	2
軟膏塗布	7	浣腸、摘便、軟膏貼付	適宜	5	適宜
点眼	5			5	

3) 嘱託医師定期外往診状況()は電話指示依頼

(平成29年度)

月	回数	月	回数	平成28年度	
4月	0(1)	10月	2(5)	0(4)	0(3)
5月	1(6)	11月	4(7)	2(1)	2(3)
6月	0(2)	12月	1(4)	0(1)	1(3)
7月	1(4)	1月	1(5)	1(4)	1(7)
8月	1(2)	2月	2(8)	0(6)	2(2)
9月	1(7)	3月	0(9)	0(4)	1(2)
合計		14(60)		10(41)	

4) オンコール出勤回数・()は電話対応のみ回数

(平成29年度)

月	回数	月	回数	平成28年度	
4月	1(1)	10月	1(1)	0(0)	1(2)
5月	1(1)	11月	3(1)	1(1)	2(0)
6月	2(1)	12月	1(5)	0(2)	1(3)
7月	3(1)	1月	3(1)	0(2)	0(1)
8月	2(1)	2月	2(4)	0(3)	2(1)
9月	1(1)	3月	0(2)	0(0)	0(1)
合計		20(20)		7(16)	

14 所在状況

(平成30年3月31日現在)

保険者名	在籍者数	入居・退去状況		平成29年3月31日現在		
		入居	退去	在籍者数	入居	退去
菊川市	46	17	17	45	14	14
掛川市	1			1	0	1
浜松市	1	1		0	0	1
豊岡市	1			1	0	0
静岡市	1			1	1	0
牧之原市	0			0	0	0
島田市	0			0	0	0
御前崎市	0			0	0	0
合計	50	18	17	50	26	25

15 入居申込み(待機者)状況

(平成30年3月31日現在)

市区町名	申込者数	平成29年3月31日現在
菊川市	82	76
掛川市	3	3
牧之原市	1	0
御前崎市	3	1
島田市	0	0
袋井市	0	0
磐田市	0	0
藤枝市	1	1
浜松市	1	1
静岡市	0	0
清水町	0	0
県外	0	0
合計	91	82

16 ボランティア(訪問)状況

(平成29年度)

月 日	団体名(代表者名)および個人名	内 容
毎月第3火曜日	傾聴・お話しボランティア	傾聴・入居者とのふれあい
毎月1回	ハーモニカ・オカリナ・ハンドベル	ハーモニカ等の演奏を通して音楽に触れる
毎月1回	民生児童委員 介護施設ボランティア	入居者とのコミュニケーション・外出支援
毎月1回	菊川市赤十字奉仕団	入居者とのコミュニケーション・外出支援
毎月1回	ちぎり絵 ボランティア	ちぎり絵 作品の展示、寄贈
隔月(年5回)	おんがくの広場	演奏と楽器のふれあい
7月22日	えぷろんの会	納涼祭 出店のお手伝い
7月22日	潮海寺 祇園囃子保存会	納涼祭にて祇園囃子の披露
9月16日	小澤光江様 マジックショー	敬老会にてマジックの披露
10月15日	菊川市祭典(仲島地区)	踊り披露
4月20日	ROKU昭和歌謡ボランティア	昭和歌謡・唱歌のギター弾き語りと入居者との交流
6月21日		
11月9日		

17 ボランティア(奉仕)状況

(平成29年度)

団体名(代表者名)および個人名	内 容	延日数	実人数	団体名(代表者名)および個人名	内 容	延日数	実人数
六郷小学校 5年	納涼祭 お手伝い	1	1	小笠高校 2年	納涼祭 お手伝い	1	1
六郷小学校 6年		1	1	小笠高校 2年		1	1
六郷小学校 6年		1	1				
菊川東中学校 1年		1	1				
菊川東中学校 1年		1	1				
常葉大学 2年		1	1				

平成29年度 合計 年間延日数 8日 年間実人数 8人

平成28年度 合計 年間延日数 17日 年間実人数 17人

18 事故調査状況

(平成29年度)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成28年度
怪我	転倒	2	8	1	2	2		3	2	2	3	2	3	30	13
	転落・滑落			1	2	2		1	1	1	1	1	2	12	7
	外傷	6	9	7	10	12	10	9	2	8	2	6	7	88	75
食物	誤嚥													0	0
	異食・誤飲		2											2	0
	経管栄養													0	0
薬	誤薬					2			1			1		4	4
	投薬忘れ	2	1		4						2	2	1	12	11
	内服薬	1		1		1	4	3			2	1		13	14
	配薬													0	0
ケア	爪切り													0	2
	ケア提供													0	4
	ショート忘れ物			2							1			3	8
物損	私物紛失		1	1										2	1
	物損			1			1	1	1					4	16
	利用者同士のトラブル													0	0
合計		11	21	14	18	19	15	17	7	11	11	13	13	170	155

19 実習状況

(平成29年度)

学校名等	実習名	延日数	実人数	平成28年度	
静岡高等学園	介護実習	7	1	0	0
静岡こども福祉専門学校	相談援助実習	23	1	0	0
三幸福祉カレッジ	ヘルパー2級実習	0	0	0	0
静岡福祉医療専門学校	社会福祉援助技術実習	12	1	0	0
小笠高校	インターンシップ	0	0	3	1
常葉大学	管理栄養士臨地実習	5	1	5	1
	インターンシップ	0	0	0	0
静岡福祉大学	介護福祉実習Ⅱ	0	0	40	2
静岡福祉大学	介護福祉実習Ⅲ	25	1	25	1
日本福祉大学	介護等体験	3	1	0	0
名古屋学芸大学	管理栄養士臨地実習	0	0	5	1
焼津高校	職業体験実習	4	2	0	0
合計		79	8	78	6

20 短期入居生活介護利用状況

(平成29年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成28年度
利用者人数	42	40	33	37	34	39	40	38	46	50	39	37	475	493
総利用者数	253	253	243	240	259	259	268	253	266	293	251	252	3,090	3,170

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均利用率	平成28年度
1日平均	8.4	8.2	8.1	7.8	8.4	8.7	8.7	8.4	8.1	9.4	8.9	8.1	8.4	8.7
送迎回数	106	96	94	98	97	102	97	89	104	115	101	110	101	118